



～人と地域をつなぐ～

<https://www.sougou-jinsei-daigaku.net/>

EDOGAWA
SINCE 2004
SOUGOU-JINSEI-DAIGAKU

江戸川総合人生大学

10月入学新入生募集



学ぼう、楽しもう、仲間を増やそう！ 16期生を募集します

【募集期間】7月1日(月)～8月16日(金)

【申込資格】区内在住・在勤・在学の方

【授業料】年間3万円

【就学期間】2年間

【申し込み】区役所・各事務所・図書館・コミュニティ会館などにある「入学案内」をご覧ください。
(今年より、ホームページ上から出願が可能になりました。)

【問合せ先】江戸川総合人生大学 事務局 〒133-0061 江戸川区篠崎町7-20-19 TEL: 03-3676-9075

人 生 大 学 地域のために自分の力を活かしてみたい。江戸川総合人生大学はそんな方を応援するために江戸川区が開設した大学です。(※学校教育法で定める正規の大学ではありません。)

16期生へのメッセージ

令和元年10月に江戸川総合人生大学へ入学を希望される皆様に、各学科の『授業内容』や『面白さ・楽しさ』を在校生の皆さんがお伝えします。

江戸川まちづくり学科

江戸川区をより暮らしやすいまちにするために、自分にできる取り組みについて考える学科です。

授業の一つ、まちの魅力や文化を探る「えどがわの種探し」として区内のいろいろなところを訪問します。下の写真は、葛西海浜公園西なぎさの清掃と、篠原風鈴本舗での江戸風鈴作成体験のものです。



また、いろいろなワークショップ手法などを学び、実践しています。写真は、篠崎のまちあるきで見つけた「たからもの」を、学習した手法を用いてグループ発表しているときの様子です。



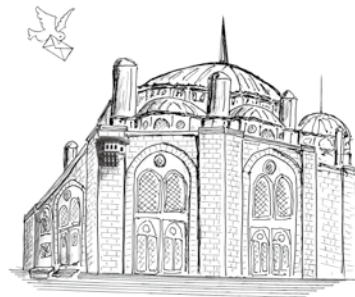
国際コミュニティ学科

この学科では、「文化が異なる外国人をどう理解し、どうしたら一緒に楽しい生活を送れるか」、多文化共生のあり方を考えていきます。

そのために、外国の文化や生活、在住外国人を取り巻く現状や課題を知ることから始まります。在住外国人から自国の文化・生活習慣、日本での生活について話を聴いたり、NPO 法人の方からも、外国人の実情や課題の説明を受けます。異文化に触れるために、実際にその地に行き、聞いたり、観察したりして考えを深める方法やプロセスも学んでいきます。

その後は、地域活動にどう活かすかプロジェクトチームへと発展させ、ボランティア活動に参加する等、実践体験を行います。この間、モスク（イスラム教の寺院）訪問という面白い時間もあります。

年々増える在住外国人とともに、地域で豊かに生活する取り組みを探していきます。



子育てややえあい学科

今こそ子育てお助けマンになりましょう!!

社会が急速に変化する中で、子育てに関しても変化が見られます。乳幼児から中高生まで、様々な課題があり、親だけでは解決できない状況です。地域や周囲の力（お節介）が必要になっています。

子どもを取り巻く様々な課題について理解し、子どもの成長過程について学問的に学び、議論しながら対応や解決策等について考えていきます。

特に今、社会的に大きな課題である不登校や引きこもり、子どもの貧困など、講師の話や現場で対応している方々の体験談を通して、自分にできる事は何か、どう支えていくのか等勉強になることがたくさんあります。



お節介おばさん、お節介おじさんはもとより、子育て真ただ中のパパ、ママも是非一緒に学びましょう!!

介護・健康学科

「一期一会」、それが江戸川総合人生大学です。

介護・健康学科に入学した動機、あるいは、入学してよかったと思うことは、個人個人で違いもあるようですが、自分探し、生き甲斐探し、仲間との交流、などでした。

介護保険制度や認知症についてなど、健康や社会福祉全般を学びます。是非、介護・健康学科に入学して、半歩でも、一歩でも前に進みましょう。

自宅に孤立せず、今日の用事や、今日行くところを創って、積極的に人と会話して、社会とかわかっていきましょう。そして、そのことが人の役にたつような活動になれば、感謝もされて、生き甲斐が充実するかもしれません。社会も我々自身にそれを望んでいるようで、そのような活動に取り組む先輩たちの集まりも多くあるようです。



15期生の「授業内容」の紹介

1年次では、専門科目のほか、共通基礎科目として必修の「えどがわ入門」を、選択科目として2科目を履修します。興味深い今日的なテーマで、それぞれ10回の授業があります。

共通基礎科目（必修）

えどがわ入門

江戸川総合人生大学で学ぶための最も基礎となる科目です。

私たちが住む江戸川区について、産業・子育て・福祉・まちづくり・環境・教育など、様々な角度から現状や課題を中心に理解を深めました。

江戸川区長をはじめ人生大学学長、江戸川区の各部・課長が講義をします。どの授業をとっても、「そうなんだ」と感心することが多く、その後の江戸川区を見る目が変わったように思い、改めて江戸川区の実情や課題、良さなどが深く理解できました。

また、町会の掲示板・「広報えどがわ」などの情報紙に目が向くようになりました。町会活動にも参加しようという気もちも湧いてきました。

（子育てささえあい学科：大塚 恭子）

共通基礎科目（選択）

地球環境を考える身近な活動

毎日の報道で、地球環境問題を目にしない日はありません。「環境」が人間にとって何より重要なことを、ようやく世界中が自覚し始めました。

この科目では、地球環境の危機が身近に迫っていることを知り、我々の子孫に生命のかけがえのなさを伝えるため、水と緑、生きもの、エネルギー、ごみなどの問題を考え、身近なところで如何に行動していくかを学びました。（国際コミュニティ学科：松村 知勝）

みんなで創る安全・安心

私たちが住む江戸川区の現状やそこに潜んでいる課題について、防犯・防災の視点から学び、安全で安心なまちづくりを創造していきます。



江東5区広域避難推進協議会

近年、地震や豪雨により大規模で深刻な災害が発生しており、特に水害について関心を持っていました。荒川上流の堤防が決壊すると私が住む北葛西地区は3～5mの浸水となり、2週間以上水が引かず、江東五区以外へ避難することをお願いされることになっていることが分かりました。区報などで目にはしていましたが、専門家から直接お話を聞いてよかったです。

（江戸川まちづくり学科：谷村 健次郎）

くらしと健康

2025年問題と呼ばれる団塊の世代が後期高齢者に突入する現在、人生百歳を健康長寿で迎えるために身体や心の健康と日々の暮らしとの関係を学ぶ身近な講座です。医師や専門家の講義を聞き、たとえ「一病息災」であっても、少しでも長く健康で目標に達する事が出来る様にヒトの心の健康・食事の栄養に口腔ケアを考え、運動の仕方や救命救急法なども学びました。

（江戸川まちづくり学科：新川里代）



カウンセリングの基礎

私たちは、さまざまな悩みや問題を抱えながら生きています。カウンセリングでは人がこうした悩みや問題に自分らしく向き合っていくプロセスに寄り添い、その方々を聴いていきます。この授業では、現役カウンセラーのもと、座学と実践を通して日常で使えるカウンセリングの技法を学びます。普段の生活では学ぶことがない、言葉を通しての信頼関係作りをわかりやすく教えてもらえます。私も話す以上に他者の話を聴く大切さを学べ、日常のコミュニケーションに活かせるようになりました。（子育てささえあい学科：赤松 卓人）

第14回

江戸川総合人生大学祭

わがまち江戸川～世代と文化をこえて～

入場
無料

令和元年 7月20日（土） 10時～16時

会場：タワーホール船堀 1階展示ホール1・2/3階産業振興センター

スタンプラリーで
プレゼントを連呈!!



14期生の『専門科目』と『社会活動体験』の紹介

江戸川まちづくり学科

退職後は社会への恩返しに地域ボランティア活動をしたと考えていた私は、まず人生大学に入り、地域を知る事から始めました。

大学での成果は、地域への理解と、地元への愛着が生まれたこと。そして、多くのボランティア団体があり、そこで活動するシニアの方々の元気な姿を知ったことです。暇を持て余すシニアの姿は、ここにはありません。

大学には実に楽しい仲間が集っています。年齢も経験も様々。時には紙芝居や寸劇を行ったり、時にはプレゼンに向けチーム全員がパワポを使えるよう教え合ったり。いつの間にか授業の後に昼食会も行うようになりました。好き勝手なおしゃべりの時間は、とても楽しいひと時です。

現在私は、パソコン教室の2団体でサポーターとして活動しつつ、防災ボランティアと写真クラブにも足を運び、充実した毎日を過ごしています。卒業後もまち14期のクラス会を作り、交流を続けようと話し合っています。（元井 博士）



国際コミュニティ学科

国際コミュニティ学科2年次の授業内容は、社会活動体験とグループ活動です。社会活動体験は、個人が関心を持っているボランティア活動に40時間参加することです。

私は、公立学校に通う外国人の子どもに日本語を教える活動を行いました。日本語を話すようになるのは早く、すごいと感じました。しかし、日本語で、国語や数学などの授業を学ぶことは、大変そうでした。

グループ活動は、研究テーマが似ている人が集まって調査研究を行います。私たちのグループは、日本語を外国人に教えているボランティア活動の現状と課題を調べました。また、日本語を教えるのに必要な知識をみんなで学びました。

この5月に一之江で「えがおで日本語サロン」という日本語を教えるボランティア活動を始めました。

（堀越 春江）



子ども・子育て応援学科

私は社会活動体験として、『江戸川みまもり隊』の地域交流活動を選択しました。『江戸川みまもり隊』は平成23年に介護6期生が中心となり、「地域高齢者みまもり」と「地域交流会」を二本柱に設立しました。

設立当初から私はみまもり活動に参加していましたが、今回は子ども・子育て応援学科生として「地域交流会」で活動しています。地域の方々は私の弾くギターの伴奏で歌ったり、保育園児とは手品・けん玉・歌で交流をしています。私の弾くギターに関心を示す園児もいます。

参加された方々の素敵な笑顔や園児の個性豊かで行儀のよい姿を目の当たりにして、日ごろ、私が思っていた「音楽には力がある」「様々な体験は成長の源」を実感・実証できた出会いの場でした。

他のクラスメートは、すすくスクール・障がい者施設・介護施設・ここに応援隊・江戸川区音楽祭・子ども食堂等で幼児から高齢者を対象に活動をしています。

（森田 賢一）



介護・健康学科

クラスメートの寄せ書きの言葉をつないで文章にしました。

「入学当時の私は、体力、気力、知力共に大変衰えていて、そして、現在は大学生をエンジョイしています。」「思いがけず

変化にとんだ忙しい日々となり、久しぶりに受ける講義も新鮮でした。」「介護制度、老人ホーム、地域包括支援センター、なごみの家」、「脱“ひきこもり、市民活動”など、「一年次で学んだ事を、二年次の社会活動体験で実際に訪問、活動することで、「今後自分がどのように生きていくかを考える」「良いきっかけを得たことが一番の成果だと思います。」「何といっても学校に行くことで多くのクラスメートがいます。1泊、2泊の旅を楽しむ友人もできました。」

「地域を学び、生き甲斐を見つける。」「年齢はいつでも何事にも挑戦していく気持ちが大事だということを実感しています。」「自分の老後探しをしてみませんか。」

（介護・健康学科14期一同）



同窓会の窓



古くから、かぐや姫のふるさとであったり、「兎が餅をついている」などと言われたりして愛されてきた月に、アポロ11号で人類が初めて降り立ったのは1969年7月、今から50年前のことでした。人類の宇宙への「夢」の一つが実現した瞬間でした。テレビでも生中継され、大きな感動を世界に与えました。今日までアポロ計画以外に有人で地球以外の天体に着陸した例はなく、科学技術上の偉大な功績であるとされています。こんな大きなものではないかもしれませんが、私達江戸川

総合人生大学卒業生は、皆それぞれ地域に貢献したいという「夢」をもって日々活動が続けています。江戸川総合人生大学同窓会は、これからも共に歩んで行く存在でありたいと思っています。

同窓会会長 前田 直義（国際9期）

同窓会ホームページ <https://www.jinseidaigaku-dousoukai.net/>
メールアドレス info@jinseidaigaku-dousoukai.net

編集後記

年号が令和に変わり、長年親しんできた平成とも別れ、この情報紙は令和第1号となります。令和とは「人が美しく、心を寄せ合う中で文化が育つ」という意味だそうです。

昨年入学した15期生を中心に、和気あいあいと専門分野以外も紹介して貰いました。

本年度、人生大学への入学を考えている皆様の参考になればと思います。

副編集長 多久島 重（まち14期）

編集：「ひと あい えどがわ」編集委員

[14期生] 多久島 重、田村 誠二郎（まち） 榎本 清一、山崎 早苗（国際）
栗原 國子（子ども） 川崎 富美雄、松瀬 元春（介護）

[15期生] 新川 里代、谷村 健次郎（まち） 小越 美子、松村 知勝（国際）
赤松 卓人、大塚 恭子（子育て） 橋住 徳幸（介護）